

平成29年度
宇都宮短期大学附属高等学校入学試験問題

国 語

注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 試験時間は、板書されている時間割のと通りの50分間です。
- 3 問題数は大きな問題が4問で、表紙を除いて10ページです。四は記述問題です。
- 4 解答用紙は2枚で、答え方はマークシート方式と記述式です。
- 5 監督者の指示にしたがって、試験開始前にマークシート冊子から解答用紙を切り離し、受験番号のマーク欄を確認後、氏名を決められた欄に書きなさい。
- 6 監督者の指示にしたがって、試験開始前に受験番号と氏名を記述用解答用紙の決められた欄に書き、さらにバーコードシールを決められた枠の中に貼りなさい。
- 7 答えは、それぞれの解答用紙に記載されている注意事項にしたがって、ていねいに記入しなさい。
- 8 試験中に質問があれば、手をあげて監督者に聞きなさい。
- 9 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、鉛筆をおきなさい。

— 1 —
次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

1 一八三九年に写真が発明された当初、ひとびとがなによりも写真に期待し熱狂したのは、当然のことながら肖像写真であった。一般庶民にとって、それまでゆるされなかった自分の肖像をもつことは、もつとも魅惑的な欲望のひとつだったにちがいない。当初写真家がモデルとしたのは、(a) 伝統的な貴族の肖像画であった。

そのような写真は高価であり、だれでも所有できたわけではなかった。だが一八六〇年代になると、八個ないし一二個のレンズをもち、一枚の感光板に複数枚の小さな写真が撮れる、より廉価なカールド・ド・ヴィジット(名刺写真)が流行し、いわばイメージの民主化をもたらした。その小型で廉価なイメージによって、これまで社会のなかで顔をもたなかった無名の、労働者をもふくめた一般大衆が、たとえどれほど小さくともみずからの顔と身体を所有することができるようになる。

2 だが、都市を中心としたあらたな共同体において他者とは、雑踏のなかでたまさかの一瞬すれちがっては、おたがいに相手の外貌を一瞥して二度とあうことのない匿名の群衆であり、(b) 広範に流布する写真のなかの見も知らぬ顔である。この面と向かつての自他の関係が希薄な社会、見も知らぬ多数の他者の顔にひとをかかわらせる社会にあつては、ひとはまず身なりであり、内面は外貌にもとづいて評価される。ここには、「個人⇨人間」の内面の普遍性からその特殊なあらわれとしての外面へと向かう古典的な視線か

ら、外面の類型にしたがつて当の人物の内なるひととなりを見定めようとする視線への逆転が、それゆえ他者経験のあらたな展開が見てとれる。そしてカールド・ド・ヴィジットは、(c) こうした視線において成り立つあらたなレパートリーを開拓した。肖像写真があらたにつくりだしたレパートリー、それは肖像に似て非なるもの、(d) 近代の管理システムのなかで流通する顔写真である。

3 一八八〇年代、パリ警察の役人であったアルフォンス・ベルテイヨンによって、犯罪者を正確に同定するための正面と右側の横顔からなる一組の顔写真の標準フォーマットと、それらを収集保管するフアイリング・システムが考案された。被写体つまり犯罪者は、その画像が中央におさまるようにきちんと垂直にすわり、両肩はできるだけおなじ高さに、頭部は頭支えにもたせかけ、視線はまっすぐ前を見て水平にたもち、特定の表情をしてはいけない。顔写真はこのきわめて (A) なフォーマットによって、被写体は「個人⇨人間」の肖像写真における内面の自己像の呈示をいっさいうばわれて、

(B) に他人の目によって外から観察され、監視される特異な標本個体としてあつかわれる。そこに固定された顔は、正常で健全な (C) 類型とくらべて、いかにも (D) な類型を示しているだろう。4 顔写真にあつては、モデルは、もっぱら監視するまなざしがかれる顔の上に描く犯罪者のイメージのなかに自分のすがたを認めざるをえないし、これをのがれることもできない。顔写真とは、剥奪された自己像の、疎外された顔の物語である。

5 犯罪が多様化し動機も複雑になる一方の現代にあって、犯罪者の顔がいかに犯罪者然としているなどということは、じつさいにはむしろすくないだろう。にもかかわらず、たしかに今日でもわれわれは、テレビニュースや掲示板に手配写真を見ると、ついそこ注1に、いかにも犯罪者らしい凶暴な顔つきを認めたくなくなることがある。われわれもまた無意識のうちに、そこにモデルの全体としての自己像や個性よりは、規準となる平均的な特性からの、諸部分の逸脱や偏差を見てしまう。ひとの顔を、この眉はふととか、目はきついつとか、顎がはついているとか、額がせまいとかいうように部分にわけて観察するとき、われわれはそのひとの顔がもっている個人としての全体的な特徴や表情に出会うよりははるかに、なにかひどくアンバランスで硬直して不気味な動物個体の標本に出会うことになるだろう。注2顔写真を見るときわれわれを感じる違和感は、われわれがその際無意識に、かつてのベルティヨンらの監視の視線に自分の視線を重ねあわせていることによる。

6 現代では、顔写真という権力装置がより精緻な私たちで日常生活のすみずみにまで浸透している。「Ⅰ」学生証、パスポート、運転免許証、身分証明書などは、もっぱら監視される犯罪者やホームレスを同定するのではなく、むしろ一定の資格や特権をもつことを証拠だてるものである。「Ⅱ」それゆえわれわれの社会にあっては、肖像写真と顔写真との境界はきわめてあいまいなものとなっている。卒業写真アルバムにあられたクラスメートの写真や新聞でいつも目にする政治家たちの写真は、完全に顔写真のフォーマ

ットにおさまっている。「Ⅲ」思い出のスナップ写真も、トリミングによって容易に手配写真に転じる。これを見るわれわれも、スナップを肖像写真として見る家族や友人のまなざしから、やすやすと手配写真に刻印された逸脱をさぐる監視のまなざしへと転じる。「Ⅳ」

7 イメージの民主化のはてに、生まれたときから大量の写真やビデオといった映像メディアに写しとられた自分のさまざまな顔を見つつ、またマス・メディアのなかで毎日個人的にはまったく見も知らぬ大量の顔と視線をかわしつつ、われわれ自身の顔も、そのようにメディアのなかを幾重にも増殖し乱反射し拡散する、肖像写真とも顔写真とも見分けのつかない無数の顔のなかで浮遊する。だからといって、あの近代がつくりだした内面、自我、精神という実体、「個人Ⅱ人間」という確固とした輪郭をもった肖像画や肖像写真を、自分の顔とすることはもはやできない。ひとはいまや、自分の顔が無数の顔のなかでハレーション注2をおこしてくつきりとした輪郭をうしなっていくという、ポストモダン注3とよばれるあたらしい状況のなかで、しかしだからこそいっそう切実に、自分自身にじっくり顔を探しもとめてやまない。だがこの「わたし」探しは、容易ではない。注4（西村清和「電腦遊戯の少年少女たち」から）

（注1）トリミングⅡ写真画像の不要部分を切り落とすこと

（注2）ハレーションⅡここでは、白くぼやけること

（注3）ポストモダンⅡ脱近代化

問一 () a () から () d () に入る語の組み合わせとして

して適当なものほどれか。

- ア 「a つまり b まずは c あるいは d まさに」
- イ 「a まずは b あるいは c まさに d つまり」
- ウ 「a まさに b つまり c まずは d あるいは」
- エ 「a あるいは b まさに c つまり d まずは」

問二 ① イメージの民主化とあるが、その説明として適当なものほどれか。

- ア 技術開発によって低価格になった写真を、一般大衆ももてるようになったということ
- イ 一八世紀ぐらいから、庶民の間で写真技術革新がなされ、一般大衆でも写真が作成できるようになったということ
- ウ 貴族層のみがもつことを許されていた肖像写真を、富裕層の庶民であれば手にできるようになったということ
- エ 写真技術の発達によって、市場に出まわった有名人の名刺写真の価格競争がなされるようになったということ

問三 ② 視線への逆転とあるが、その説明として適当なものほどれか。

- ア 外見と内面には因果関係がないことがわかったということ
- イ 都市では外見からの評価ができなくなったということ

ウ 他者についての判断基準が、内面を重視する価値基準に変わったということ

エ 他者の人物像を、外見などから類推して判断するようになったということ

問四 A から D に入る語の組み合わせとして適当なものほどれか。

- ア 「A 犯罪者の B 体系的 C 徹底的 D 平均的」
- イ 「A 体系的 B 徹底的 C 平均的 D 犯罪者の」
- ウ 「A 平均的 B 犯罪者の C 体系的 D 徹底的」
- エ 「A 徹底的 B 平均的 C 体系的 D 犯罪者の」

問五 ③ 顔写真を見るときわれわれを感じる違和感とあるが、その説明として最も適当なものほどれか。

- ア 顔写真からそのひとの内面を探ろうと、つい監視的な見方をしてしまうことよって生じるもの
- イ 犯罪が多様化した現代では、平凡な顔つきをしたひとに対しても警戒心を抱いてしまうことよって生じるもの
- ウ そのひとの全体としての特徴よりも、平均的な特性にあてはまらない部分を見ってしまうことよって生じるもの
- エ 部分部分に注目するのではなく、全体的な特徴からそのひとを判断しようとするることよって生じるもの

問六

次の文章が入るところは、本文中の「Ⅰ」から「Ⅳ」のどこか。適当なものを後から選べ。

にもかかわらず顔写真という磁場を成り立たせているのは、それぞれが一定の資格をもち、一定の制度を体现しつつも、おたがいに監視しあうまなざしである。

- ア「Ⅰ」
- イ「Ⅱ」
- ウ「Ⅲ」
- エ「Ⅳ」

問七

④この「わたし」探しは、容易ではない。とあるが、その理由として最も適当なものはどれか。

- ア 自他の映像メディアが氾濫している現代では、自身の輪郭さえあいまいになっているから
- イ 幼いころから大量の映像メディアに囲まれ、どの写真が本当の自分であるのかわからなくなっているから
- ウ 現代は他者との関わりが希薄なため、自分の存在を顔写真のみでしか立証できなくなっているから
- エ 大量の顔が乱反射している現代のメディアでは、その人自身の内面を特定の表情から理解できなくなっているから

問八

本文を段落分けしたものとして適当なものはどれか。

ア	「 1 」	「 1 」	「 1 」	「 1 」
	「 2 」	「 3 」	「 4 」	「 5 」
	「 4 」	「 5 」	「 6 」	「 7 」
	「 5 」	「 6 」	「 7 」	「 8 」
	「 6 」	「 7 」	「 8 」	「 9 」
	「 7 」	「 8 」	「 9 」	「 10 」
	「 8 」	「 9 」	「 10 」	「 11 」
	「 9 」	「 10 」	「 11 」	「 12 」
	「 10 」	「 11 」	「 12 」	「 13 」
	「 11 」	「 12 」	「 13 」	「 14 」
	「 12 」	「 13 」	「 14 」	「 15 」
	「 13 」	「 14 」	「 15 」	「 16 」
	「 14 」	「 15 」	「 16 」	「 17 」
	「 15 」	「 16 」	「 17 」	「 18 」
	「 16 」	「 17 」	「 18 」	「 19 」
	「 17 」	「 18 」	「 19 」	「 20 」
	「 18 」	「 19 」	「 20 」	「 21 」
	「 19 」	「 20 」	「 21 」	「 22 」
	「 20 」	「 21 」	「 22 」	「 23 」
	「 21 」	「 22 」	「 23 」	「 24 」
	「 22 」	「 23 」	「 24 」	「 25 」
	「 23 」	「 24 」	「 25 」	「 26 」
	「 24 」	「 25 」	「 26 」	「 27 」
	「 25 」	「 26 」	「 27 」	「 28 」
	「 26 」	「 27 」	「 28 」	「 29 」
	「 27 」	「 28 」	「 29 」	「 30 」
	「 28 」	「 29 」	「 30 」	「 31 」
	「 29 」	「 30 」	「 31 」	「 32 」
	「 30 」	「 31 」	「 32 」	「 33 」
	「 31 」	「 32 」	「 33 」	「 34 」
	「 32 」	「 33 」	「 34 」	「 35 」
	「 33 」	「 34 」	「 35 」	「 36 」
	「 34 」	「 35 」	「 36 」	「 37 」
	「 35 」	「 36 」	「 37 」	「 38 」
	「 36 」	「 37 」	「 38 」	「 39 」
	「 37 」	「 38 」	「 39 」	「 40 」
	「 38 」	「 39 」	「 40 」	「 41 」
	「 39 」	「 40 」	「 41 」	「 42 」
	「 40 」	「 41 」	「 42 」	「 43 」
	「 41 」	「 42 」	「 43 」	「 44 」
	「 42 」	「 43 」	「 44 」	「 45 」
	「 43 」	「 44 」	「 45 」	「 46 」
	「 44 」	「 45 」	「 46 」	「 47 」
	「 45 」	「 46 」	「 47 」	「 48 」
	「 46 」	「 47 」	「 48 」	「 49 」
	「 47 」	「 48 」	「 49 」	「 50 」
	「 48 」	「 49 」	「 50 」	「 51 」
	「 49 」	「 50 」	「 51 」	「 52 」
	「 50 」	「 51 」	「 52 」	「 53 」
	「 51 」	「 52 」	「 53 」	「 54 」
	「 52 」	「 53 」	「 54 」	「 55 」
	「 53 」	「 54 」	「 55 」	「 56 」
	「 54 」	「 55 」	「 56 」	「 57 」
	「 55 」	「 56 」	「 57 」	「 58 」
	「 56 」	「 57 」	「 58 」	「 59 」
	「 57 」	「 58 」	「 59 」	「 60 」
	「 58 」	「 59 」	「 60 」	「 61 」
	「 59 」	「 60 」	「 61 」	「 62 」
	「 60 」	「 61 」	「 62 」	「 63 」
	「 61 」	「 62 」	「 63 」	「 64 」
	「 62 」	「 63 」	「 64 」	「 65 」
	「 63 」	「 64 」	「 65 」	「 66 」
	「 64 」	「 65 」	「 66 」	「 67 」
	「 65 」	「 66 」	「 67 」	「 68 」
	「 66 」	「 67 」	「 68 」	「 69 」
	「 67 」	「 68 」	「 69 」	「 70 」
	「 68 」	「 69 」	「 70 」	「 71 」
	「 69 」	「 70 」	「 71 」	「 72 」
	「 70 」	「 71 」	「 72 」	「 73 」
	「 71 」	「 72 」	「 73 」	「 74 」
	「 72 」	「 73 」	「 74 」	「 75 」
	「 73 」	「 74 」	「 75 」	「 76 」
	「 74 」	「 75 」	「 76 」	「 77 」
	「 75 」	「 76 」	「 77 」	「 78 」
	「 76 」	「 77 」	「 78 」	「 79 」
	「 77 」	「 78 」	「 79 」	「 80 」
	「 78 」	「 79 」	「 80 」	「 81 」
	「 79 」	「 80 」	「 81 」	「 82 」
	「 80 」	「 81 」	「 82 」	「 83 」
	「 81 」	「 82 」	「 83 」	「 84 」
	「 82 」	「 83 」	「 84 」	「 85 」
	「 83 」	「 84 」	「 85 」	「 86 」
	「 84 」	「 85 」	「 86 」	「 87 」
	「 85 」	「 86 」	「 87 」	「 88 」
	「 86 」	「 87 」	「 88 」	「 89 」
	「 87 」	「 88 」	「 89 」	「 90 」
	「 88 」	「 89 」	「 90 」	「 91 」
	「 89 」	「 90 」	「 91 」	「 92 」
	「 90 」	「 91 」	「 92 」	「 93 」
	「 91 」	「 92 」	「 93 」	「 94 」
	「 92 」	「 93 」	「 94 」	「 95 」
	「 93 」	「 94 」	「 95 」	「 96 」
	「 94 」	「 95 」	「 96 」	「 97 」
	「 95 」	「 96 」	「 97 」	「 98 」
	「 96 」	「 97 」	「 98 」	「 99 」
	「 97 」	「 98 」	「 99 」	「 100 」

問九

本文の中で述べられている内容と合うものはどれか。

- ア 名刺写真は、雑誌や新聞などが未発達であった十九世紀においてメディアに変わる役割を果たしていた。
- イ 顔写真という権力装置が浸透している現代では、フォーマットを変えると、被写体の印象も容易に変化する。
- ウ カルド・ド・ヴィジットは、自他の関係が希薄な社会においてイメージの民主化という目的を成し遂げた。
- エ 同じ顔写真でも、犯罪者を管理する目的とは異なる身分証明書などの顔写真は、監視的視線とは無縁である。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

始まりは、夏休みに伯母の家を両親に連れられて訪ねたことからである。暑い夏、私は、とても退屈していた。私は、誰からも見捨てられているという気分を存分に味わっていた。私は、そうされる①ことが、時々、好きだった。つまり、私は、少しばかり、風変わりな子供だったのだ。

私は、生き物の気配を感じたくなると、その家で飼われていた犬のチロの側②に行つた。と、言つても、もちろん、犬と遊ぶようなこととはせず、ただ彼が尻③つぽを振つたり、つながれたポーチの中を意味なく走り回つたりするのを見ていた。彼も、私が犬を可愛④がる種類の人間でないことが解⑤つていたので、じゃれ付くようなことはなかった。彼は、暑さのせいで、いつも舌をだらりと伸ばして不愉快⑥そうに息をしていた。チロは、色々なことを憎んでいるのかもしれないなあ。私は、麦茶を飲みながら、いつも、彼を見ていた。

ある日、いつものように、チロのところに行く②と、彼は食事の最中だった。彼は、私のことなど見向きもせず②に、一心不乱に私たちの昼食の残りのカレーライスを食べていた。それを見た瞬間、何故⑦か、私の内に、彼に対する強烈なとおしさが芽生えて来た。カレーライスを食べなければならないという立場に立たされた犬に、私は共感を覚えたのである。

「チロ」私は彼の名を呼んだ。彼は、まったく私の声など聞こえない③というように、音を立てて食べ物③を咀嚼④していた。私は、サンダ

ルを履いてポーチに降りた。そして、食事⑤中の犬に近寄った。彼は、まだ、私の存在に気付いていない。チロ。私は、もう一度呼んだ。けれども、顔を上げようとしなかった。私は、チロの横にしゃがみ込み、彼の頭を撫⑥でた。私に頭を撫でられながら、彼は、ただ、ひたすらカレーライスを食べていた。ふと、彼は、食べるのを止めて顔を上げた。そして、愛情を込めた私の視線と自分のそれを交錯させた。一瞬、沈黙があった。私は、彼に微笑⑦もうとした。彼は、それに応えるかのように少し笑つた、と思つたのだが、その瞬間、私の手は彼に噛⑧まれていた。私は驚いて、その場に尻餅をつき、慌てて無理矢理、自分の手を彼の口から引き抜いた。私は、まさか、彼に噛まれるとは予想もしていなかった⑧ので、衝撃を受けて、尻餅をついたまま後ずさりした。チロは、そんな私を一瞥⑨しただけで、再び、カレーライスを食べ始めた。

私は、よろよろと起き上がり、噛まれた手を押さえながら、家中に入つた。おそろおそろ見ると手の平に二つ傷が出来ていて、血が流れていた。私は、唇を噛んで、庭のチロを見た。彼は、すっかりカレーライスをたいらげ、気持良さ⑩そうに、あくびをしていた。私は次第に噛まれた傷が痛み出すのを感じて、涙を浮かべながら、彼を見ていた。④「なんだか、せつないような寂しいような気持ちに包まれていたが、犬を憎むような真似④は出来なかった。私は、チロのためにも、このことは他言すまいと決意した。」

私は傷口を洗い、何事もなかったかのように、他の人々の前で振る舞つた。誰も、チロに噛まれた私の衝撃を知る者はいなかった。

皆、私をいともどおりだと思っていた。その晩の夕食までは。

母と伯母が夕食の支度をしている間、私と、妹たちは、テレビの続き漫画を観ていた。少年忍者が、立ち向かって来る敵を倒しながら、ある大切な人を捜すために旅をするという漫画である。

その日、少年忍者は、犬に噛まれた。私は、驚き、目はテレビに釘付けになった、半年程、忍者は何事もなく旅を続ける。そして、突然、奇異な行動を取るようになる。川の水を直接顔を付けたまま、ぴちゃぴちゃと飲んだり、四つん這いになり走りまわったり、寒気や高熱にうなされながら、発狂して行くのである。その忍者の様子を静かに語り手が説明して行く。彼は、六カ月の潜伏期間を経て、発病した狂犬病によって死んで行くのだ。

「犬に噛まれると、狂犬病になっちゃうんだってー」妹が、叫んだ。私は、自分の顔の血がすうっと下に降りて行くような気分を味わっていた。⑤いつのまにか、チロに噛まれた手を隠すようにテーブルの下にもぐり込ませている自分に気付いた。

その日から、私の日常は変わった。六カ月後に死を迎える人間としては、何をすべきであるのかを考えなくてはならなかった。私は、いつも、ひとりで、ぼんやりと悩んでいた。そうしている間にも、死期がせまっているかと思うと冷汗をかいてしまう程だった。もうじき、発狂の前触れがある筈だ。私は、そう思い、いてもたってもいられなかった。

「ママ、私が死んだらどうする？」私は、たびたび、そんな質問をするようになり母を恐がらせた。⑥「死ぬなんて言葉を口に出したりし

たら、現実になっちゃうのよ。絶対に、そんなこと聞かないでちょうだい」母の言葉に、私は、無言で首を横に振った。この人は、何も解っていない。私は、母を、いとおしく思った。⑦今度は妹に尋ねた。「ねえ、お姉ちゃんが死んだら、どうする？」「そしたら、去年の誕生日にパパが買った熊の縫いぐるみちようだいよ」私は、うなだれて、自分の部屋に戻り、ひとりで、泣いた。孤独だった。今度は、父にも尋ねてみた。「パパ、私が死んだら、悲しい？」父は、げらげら笑った。「生と死について考えているのか。やあ、さすが、パパの娘だ。この年齢にして、すでに哲学か、いやあ、わっはっはっは、感心、感心」哲学どころの話ではなかった。私は死につつあるのだ。「Ⅰ」もしかしたら狂犬病かもしれない。その不安は、死の接近について、考え続けている内に、はつきりと、私は狂犬病であるという確信に変わって行った。私は、六カ月後に死ぬ。この事実だけが、私の頭の中を駆け巡っていた。

私は、物憂い気分になりながら、季節の移り変わりを感じていた。死を意識してから、私のまわりがうごめくはつきりと形を持たないもの、たとえば、季節、たとえば、時間、そういったものが、急速に姿を現し始めていた。「Ⅱ」そして、周囲の人々、それは主に家族のことだが、彼らが私の周囲に形成する感情のモザイクのようなものが、まるで積木のように重ねられていることも知った。「Ⅲ」彼らの私に対する感情には、まったく隙間がなかった。母の私に対する思いを手でつまみ、空気の中から、一時的に外そうとすると、その空白を父や妹の感情の塊がおぎない、埋めるとい

感じだった。「Ⅳ」私は、初めて、家族が愛し合うことに、
[] が存在しないことを知った。私の周囲は、濃密な他者
からの愛で満たされていた。そして、幸福な人間は、そのことに気
付くことがなく、そして、だからこそ幸福でいられるのだというこ
とに私は気付いた。幸福は、本来、無自覚の中にこそ存在するのだ。
私は、父と母と妹を見て、つくづくそう感じた。その中で、私は、
ひとり不安を背負い込んだ。⑧ 自分が愛に包まれていると自覚してし
まった子供ほど、不幸なものがあるだろうか。私は、目の奥の涙腺
を縛り上げ、日常から涙を排斥することに全力を傾けた。

(山田詠美「晩年の子供」から)

(注) 狂犬病Ⅱ犬に流行する急性伝染病。人や家畜に感染すること
もある。現代の日本では発生していない。

問一

① 風変わりな子供のここでの意味として適当なものほどれか。

ア 人を求めるようなところがなく、放っておかれることを心地

よいと思えるような、ふつうとは様子の違う子供

イ 他の子供よりもひとときわ大人びていて、自分を退屈させる家
族を非難するような、素直でない子供

ウ 子供らしく振る舞うことが苦手で、あえて他の人に見捨てら
れるようなことをして喜んでいるような、へそまがりな子供

エ 人とうまく関係を持つことが出来ず、人間よりも犬と遊んで
いるほうが気楽であるような、周囲からすると不思議な子供

問二

② 一心不乱、咀嚼の本文中での意味の組み合わせとして適当な
ものはどれか。

ア 「②」とりつくしまがない様子 ③ 味わうこと

イ 「②」いやがっている様子 ③ 飲み込むこと

ウ 「②」集中して雑念がない様子 ③ かみ砕くこと

エ 「②」うるさがっている様子 ③ むさぼること

問三

④ なんだか、……：気持に包まれていたとあるが、このように
「私」が思う理由として適当なものほどれか。

ア 孤独を抱える者どうしとして一度は心を通わせた「チロ」に
反抗され、孤独だったのは自分だけだったのだと思い知らされ
たから

イ 退屈な日常生活の中で唯一心を許せる存在だった「チロ」に
攻撃され、この家に自分の味方はもういないという現実を突き
付けられたから

ウ 互いに親近感を持っていると思いついていたものの、「チロ」
の反応から、それが自分勝手な錯覚でしかなかったことに気付
かされたから

エ 自分の期待が裏切られたことに失望すると同時に、身勝手な
人間に振り回されて生きてきた「チロ」のかなしみに思いつい
ったから

問四 ⑤ 以下のまにかが直接かかっている文節は、本文中の~~~~線

ア〜エのどれか。

- ア 嘔まれた
イ 隠すように
ウ もぐり込ませている
エ 気付いた

問五 ⑥ 母を恐がらせた。とあるが、そのときの「母」の様子として

最も適当なものはどれか。

- ア 娘が死にたがっているのではないかと心配している。
イ 娘の軽はずみな発言が現実となることを確信している。
ウ 死をふいに口に出した娘の気持ちを量りかねている。
エ 死を見据えているような娘の言葉に不安を覚えている。

問六 ⑦ 今度は妹に尋ねた。……哲学どころの話ではなかった。と

あるが、そのときの「私」と、「妹」や「父」の様子として最も
適当なものはどれか。

- ア 自分の死を確信している「私」に対し、「妹」や「父」は犬に
嘔まれたくらいで死ぬはずがないと軽く考えていた。
イ 自分の死を前提に本気で話が出なかった「私」を、「妹」や
「父」はまともに相手にしようとしなかった。
ウ 死が目前に迫った「私」の真剣な悩みを、「妹」や「父」はわ
ざと受け流そうとしていた。
エ 死にたいという「私」の気持ちを受け止めようともせず、「妹」
や「父」はむしろ馬鹿にしていた。

問七 次の一文が入るところは、本文中の「Ⅰ」から「Ⅳ」

のどこか。適当なものを後から選べ。

色を持ち、意志を持ち、私に向かって歩き始めていた。

ア「Ⅰ」 イ「Ⅱ」 ウ「Ⅲ」 エ「Ⅳ」

問八

に入る言葉として適当なものはどれか。

ア 密閉空間 イ 真実 ウ 真空状態 エ 遠慮

問九 ⑧ 自分が愛に……不幸なものがあるだろうか。とあるが、そ

のように「私」が考える理由として適当なものはどれか。

- ア 家族が愛情で満たされているという気づきを、誰にも共感し
てもらえないことがわかっていたから
イ 家族が自分を愛してくれるのと同様、自分も家族を愛してき
たかどうか自信が持てなくなってしまうから
ウ 自分を愛してくれる家族にだからこそ、犬に嘔まれたことを
相談することが出来ず、死への不安が増すばかりであったから
エ 常に自分に關心を寄せて愛してくれる家族が、自分のせいで
どれだけ悲しむかを考えるようになってしまったから

三

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

(注1) 成通卿、年(注2)ごろ鞠(注2)を好み給(たま)ひけり。その徳やいたり(1)にけむ、ある年の春、鞠の精、懸(か)りの柳にあらはれて見(ま)えけり。みつら結(むす)ひたる小児、十二三ばかりにて、青色の唐装束(注3)して、いみじくう(b)つしげにぞありける。なにごとをも始(は)むとならば、底(すそ)をききはめて、かやう(コノヨウ)のしるしをもあらはすばかりにぞ、せまほしけれど、かか(コノ)るためし、いとありがたし。されば、学(まな)ぶ者は牛毛のごとし。得る者は麟角のごとし(注4)ともあり。またすることかたきにあらず。よくすることのかたきなりともいへる。げにもとおぼゆるためしありけり。
(注2) 麟角(りんかく)のごとし
(注3) 唐装束(たうさうぞく)して
(注4) 麟(りん)は神聖な空想上の動物

「十訓抄」から

(注1) 成通卿(なりみちきょう)は藤原成通のこと (注2) 鞠(まり)はまりを蹴る遊び
 (注3) 唐装束(たうさうぞく)は中国風の着物 (注4) 麟(りん)は神聖な空想上の動物

問一 (a) 年ごろ、いみじくの本文中での意味はそれぞれどれか。

(1) (a) 年ごろ

- ア 普段
- イ 最近
- ウ 長い間
- エ 一日中

(2) (b) いみじく

- ア 非常に
- イ 見たことのないくらい
- ウ なみひととおりに
- エ こうごうしく

問二 ① その徳やいたり(1)にけむの解釈として最も適当なものはどれか。

- ア その人柄がよいからか
- イ そのおかげであったのだろうか
- ウ その趣味を生かすきれずに
- エ その腕前があだとなつて

問三 ② けるの活用形として適当なものはどれか。

- ア 已然形
- イ 終止形
- ウ 未然形
- エ 連体形

問四 ③ 学(まな)ぶ者は……麟角のごとしの比喩の説明として適当なものはどれか。

- ア 学ぼうとする者は多くいるが、道を極める者は希少である。
- イ 学ぼうとする者は未熟であるが、道を極める者は完璧になる。
- ウ 学ぼうとする者は仲間を求め、道を極める者は孤独である。
- エ 学ぼうとする者は謙虚であり、道を極める者は柔軟である。

問五 「十訓抄」は鎌倉時代に成立したが、同時代の文学作品として適当でないものはどれか。

- ア 「平家物語」
- イ 「古今和歌集」
- ウ 「徒然草」
- エ 「方丈記」

四

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

野外の虫取りに必要な要素の一つに、気配を感じ取ることがあるという。五年前に出版された「虫捕る子だけが生き残る」(小学館)の中で、虫好きの仏文学者、奥本大三郎さんが書いていた。

子供の時分に虫を捕らなかつたせいだろうか、近頃の若者は、人の気配を察する能力が衰えて^(a)いる。そう感じるようになったのは、**1**が普及する少し前だったと記憶している。書店に入るとよくわかる。目当ての本のコーナーに若者がいると、すぐ近くに立つても、なかなか場所をあけてくれない。わざとではなく気づかないのである。同じもどかしさを、雑踏^(b)や駅のホームで味わうことも少なくない。⁽²⁾

われわれオヤジ世代は違ったと言い切る自信もないが、もどかしさを感じる頻度^(c)がスマホの普及後に増えたといえ、どなたからも異論はな⁽³⁾かるう。歩きながらスマホを使う「歩きスマホ」を標的にしたひつたり事件が東京で起き、容疑者が逮捕されたという記事を読んだ。

自分を守るためにも**2**への感度を取り戻したい。お子さんを連れて、冬ごもりの準備を始めた虫を枯れ枝に訪ねるのもいいだろう。

(読売新聞「編集手帳」から)

問一 衰^(a)、雑踏^(b)、頻度^(c)の読みをひらがなで答えなさい。

問二 **1**に入る「スマホ」の正式名称を答えなさい。

問三 なかなかの品詞名を答えなさい。⁽¹⁾

問四 少なくの活用形を答えなさい。⁽²⁾

問五 な⁽³⁾かるうを意味を変えずに、五字で言い換えなさい。

問六 **2**に入る語句を本文中から抜き出しなさい。

